

2026/5/12 地域福祉推進協議会資料



令和7年度事業報告書 (地域福祉推進事業)

名張市社会福祉協議会

目次

◆名張市社協の組織体系・・・P.1

◆事業報告

2. 地域福祉課（地域福祉係）・・・P.2

3. 地域福祉課（生活支援係）・・・P.18

4. 生きがい通所支援事業・・・P.23

◆名張市社協の組織体系

- 【組織構成会員】**
 第1種:地域づくり組織(15)
 第2種:民生委員児童委員協議会連合会(1)
 第3種:社会福祉事業施設(12)
 第4種:当事者等団体(13)
 第5種:ボランティア団体(121)
 第6種:その他社会福祉に関係のある団体(24)
 第7種:社会福祉関係行政機関(1)
 第8種:学識経験者(2)

全国社会福祉協議会(全社協)

三重県社会福祉協議会(県社協)

名張市社会福祉協議会(市社協)

理事 7名以上11名以下	評議員 10名以上12名以下	監事 2名	顧問
-----------------	-------------------	----------	----

事務局

総務課

地域福祉課

介護支援課

昭和保育園

地域福祉係

生活支援係

居宅介護支援事業

デイサービス

生きがい通所支援事業

2. 地域福祉課（地域福祉係）

- 2-①.地域福祉課（地域福祉係）の事業体系
- 2-②.地域福祉ニーズの把握
- 2-③.名張市ボランティアセンター
- 2-④.福祉教育・次世代育成
- 2-⑤.各種交流

- 2-⑥.名張市災害ボランティアセンター
- 2-⑦.社会貢献・福祉団体等事務局支援
- 2-⑧.地域福祉活動助成

2-①. 地域福祉課（地域福祉係）の事業体系

誰一人取り残さない 孤独・孤立のない地域社会の実現	【8つの重点事業】	【28の推進項目】	【取組概要】
	1. 地域福祉活動推進基盤の整備 (地域福祉課共通)	1. 課運営管理体制の基盤整備 2. 専門性に基づく実践 3. 計画的な地域福祉活動の推進	・全体事業の構造的・体系的整理による事業推進基盤の整備 ・コミュニティソーシャルワーカー(CSW)としての専門性向上 ・第5次名張市地域福祉(活動)計画への参画・事業計画の体系整理と達成度向上
	2. 暮らし応援ネットワーク事業の推進 (小地域福祉ネットワーク事業)	1. 地域生活課題の把握 2. 生活支援・介護予防サービスの支援 3. 孤独・孤立を防ぐ居場所づくり事業の推進 4. 救急医療情報キットによる地域要支援者の把握	・CSWによる地域づくり組織、各地区民協定例会、サロン等へのアウトリーチ(顔の見える関係づくり) ・生活支援CD等による地域支え合い活動、配食V、サロンの現状把握・各種担い手養成(活動共催支援) ・社会とのつながりが困難(苦手)な人のための座談会、相談会の実施 ・普及啓発・登録情報の分析と災害時活用方策の検討
	3. ボランティアセンター事業の推進	1. 福祉まちづくりセンター休止に伴う対応 2. ボランティア活動を支える基盤づくり 3. 誰もが気軽に活動できる基盤づくり 4. 福祉の心を育む人づくりとボランティアを担う人づくり	・福祉まちづくりセンター休止による窓口機能の再編(総合福祉センターふれあいでの窓口統合) ・ボランティアコーディネーターの配置・ボランティア運営委員会の開催 ・マッチング機能の発揮・ボランティア活動支援・関係機関との連携・交流と啓発活動の推進 ・福祉協力校との連携による福祉教育の推進・ボランティア人材の育成・養成
	4. 災害福祉活動基盤の整備	1. 令和6年能登半島地震への対応 2. 災害ボランティアセンター運営体制整備	・情報収集・発信・義援金・支援金の募集・職員派遣・ボランティア支援 ・運営委員会の開催・能登半島地震関連報告会、研修会の開催・名張市との連携・三重県社協等との連携
	5. 地域貢献活動の推進	1. 福祉団体等の自立運営支援を協働 2. 当事者等関係団体との連携・支援 3. 社会福祉法人ネットワークによる公益的な取組みの推進 4. おもちゃ図書館の運営 5. 日本赤十字社名張市地区事業の推進 6. その他の地域貢献	・事務局支援(身障互助会、老人クラブ連合会、遺族連合会、保護司会)・障害者スポーツ大会等 ・家族介護者の会「樹の会」・精神障がい者家族会「なばるの会」の活動支援 ・名張市社会福祉法人連絡会の運営支援及び連携・協働 ・おもちゃ図書館の環境整備・利用促進に向けた啓発活動(おもちゃ図書館コンサートの実施) ・活動啓発・災害時対応(義援金募集、罹災者への物資支援等) ・とれたて名張交流館運営協議会への参画
	6. 地域福祉活動財源確保のための 各種基金活動の推進	1. 名張市共同基金委員会事業の推進 2. 善意銀行の適正管理 3. その他の活動資金募集	・赤い羽根共同基金活動の推進(10～3月)・歳末たすけあい基金の推進(12月)・災害時の支援金募集等 ・善意銀行運営委員会の開催(適正管理)・地域福祉活動助成金財源としての拠出・車いす貸出事業の実施 ・日本赤十字社活動資金募集(5月)・名張保護司会更生保護会の資金募集(7月)
	7. 地域福祉活動助成事業の推進	1. 地域福祉活動助成事業 2. 地域づくり継続活動助成事業 3. 歳末たすけあい運動配分事業 4. 地域福祉活動支援備品貸出事業	・配食、サロン、ひとり暮らし高齢者の集いなどの活動に対する助成・福祉協力校・当事者家族会活動 ・地域づくり組織の行う地域福祉活動を支援するための助成 ・年末年始に実施される見守り活動や交流事業に対する助成 ・地域福祉活動に活用できる各種備品の貸出
8. 総合福祉センターふれあい貸館業務 の適正実施と社協窓口機能の向上	1. 総合福祉センターふれあいの貸館業務 2. 社協窓口としての機能強化	・貸館業務の適正化・安全利用のための保守管理 ・総合窓口としての対応力の強化と各部門との連携強化	

2-②. 地域福祉ニーズの把握（生活支援体制整備事業）

○各地域へのアウトリーチ

毎月1回、5名の地域福祉推進職員間による定例会を開催し、地域訪問を通じた地域現状の共有や、活動者からの相談に対するアプローチなどをテーマに話し合いをおこない、課題解決に向けてチーム力の向上に努めました。

- ・地域の現状（地域で新しく始めた事業やサロン活動等）
- ・地域へのアプローチ ・地域活動の課題解決に向けた企画づくり

【各地域へのアウトリーチ：訪問 15地域、151回】

地域名		主な実践活動
薦原	2回	サロン訪問、元気度チェックへの協力等
美旗	9回	区長会への出席、ささえあい活動再開に向けた支援
比奈知	7回	高齢者および子育てサロンへの参画、サロン出前レクリエーション、新規居場所づくり活動の立ち上げ相談・準備支援等
すずらん台	8回	サロン出前レクリエーション、ささえあい活動の継続支援等
桔梗が丘	18回	サロン・ささえあい活動支援、スクエアステップ指導補助等
名張	21回	ふれあい交流部会主催新規事業支援、ささえあい活動の継続支援、スクエアステップ指導等
鴻之台希中央	2回	子育てサロンへの参加 相談対応 等
蔵持	12回	サロン・まちじゅう元気プロジェクトへの参画等
梅が丘	26回	まちじゅう元気PJ事業参画 スクエアステップ指導、ささえあい活動の継続支援等
つつじが丘	7回	子ども育成委員会参画を通じた地域フェスタ支援、ささえあい活動の継続支援
錦生	14回	区長会への出席、スクエアステップ指導、相談対応 等
赤目	3回	子育てサロンへの参画 等
箕曲	2回	相談対応/ささえあい活動/備品貸出
百合が丘	13回	まちじゅう元気への参画、および子育てサロンへの参加 相談対応 等
国津	7回	ささえあい活動の継続支援、相談対応/備品貸出

名張地域）戦争を語る会/3階ふれあいを会場に小学生に向けて実施協力しました。



蔵持地域）高齢者サロンでレクリエーションをしました（都道府県ビンゴゲーム）



つつじが丘地域）地域ボランティアの更なる活動向上のため、他県活動団体との研修会を実施協力しました。



2-③. 名張市ボランティアセンター

名張市ボランティアセンター

運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター運営委員会の開催:3回(5月27日、7月31日、3月24日) 【委員構成】 ・名張市ボランティア連絡協議会(要約筆記サークル カワン) ・地域ささえあい活動連絡会(川西・梅が丘地域づくり協議会 福祉部会 “ちょい・すけ”) ・配食ボランティアグループ連絡会(配食VGひだまり) ・子育てサロン(青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会 親子サロン) ・高齢者サロン(よってだ〜こ8号店)(サロン うりぼう) ・第5種組織構成会員(配食、サロン除く)(ホワイトステッキ)
職員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアコーディネーター1名+ボランティアセンター事業担当職員1名=2名
登録状況	<ul style="list-style-type: none"> ・団体:176団体(令和7年度新規:9団体) ・個人:46名(令和7年度新規:11名)
相談件数	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア依頼・相談件数:75件 ・主な相談:施設やサロン、地域づくり等で開催されるイベント等で活動していただけるボランティア相談、ボランティア希望者への対応やボランティア活動での困りごと等
対応件数	<ul style="list-style-type: none"> ・調整件数:367件(ボランティア依頼・相談対応含む) ・主な調整内容:施設やサロン、地域づくり等で開催されるイベントへの参加 ・地域福祉活動備品貸出件数:652件 ・ボランティア活動保険加入件数:847件(内、天災プラン40件)
人材養成	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援員養成講座(子ども支援センターかがやきとの共催):36名 ・その他、生活支援コーディネーターと連携した見守り・ささえあい活動者への研修開催
福祉教育	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉協力校連絡会の開催 ・福祉協力校の指定(小学校14校、中学校5校、特別支援学校1校、高専1校) ・「福祉出前講座」の実施(小学校7校、中学校3校、延950名) ・近大高専との協働(災害時の備えについて学ぶ) ・社会福祉法人連絡会との協同による「福祉職場体験の実施」:13施設、41名
交流・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいフェスティバルの実施:来場者約500名

2-④. 福祉教育・次世代育成（ボランティアセンター事業）

市内小中学校等との連携
（福祉協力校の指定）

小学校	14校/14校
中学校	5校/5校
特別支援学校	1校/1校
高専	1校/1校

福祉協力校連絡会の開催
第1回：出前講座用備品紹介
第2回：先生同士グループワーク

第1回：出前講座用備品紹介



名張市社会福祉法人連絡会
との協働

・中高生・夏休み福祉の職場体験
・大人の学び直し・福祉の職場体験



福祉の職場体験のようす



●第2回連絡会

<先生の声>

- ・他校の取組を知る機会があり良かった。
- ・福祉教育で悩んだ時に相談に乗ってもらえるということを周知したい。
- ・GWをすることで、次年度の取組に繋げることが出来る有意義な時間になった。
- ・連絡会では福祉教育をして生徒の変化、何を得られたのか話し合いたい。また新しい取組についても話したい。

●福祉の職場体験[協力施設13か所、参加者41名]

<生徒の声>

- ・いろんな方とかかわることができてよかった
- ・とても楽しかった
- ・実際の環境を見ることができてよかった
- ・福祉の仕事につきたいと思った
- ・職員のみなさんが優しく接してくれた

<受入施設の声>

- ・事業者側にとってもいい機会となった
- ・地域の方が福祉にかかわるともいい企画だと思った
- ・体験者の方はとても積極的に体験してくれた



第2回：先生同士のGW

2-④. 福祉教育・次世代育成（ボランティアセンター事業）

福祉教育の推進

福祉教育プログラム
(福祉体験学習・福祉出前講座)

- ・高齢者疑似体験
- ・視覚障がい者体験
- ・車いす体験(自販機購入体験含む)
- ・ユニバーサルデザイン紹介
(バリアフリーとの違い)
- ・ボランティアについて
- ・福祉について
- ・ふれあいの施設見学 等
- ・パラスポーツ体験(ポッチャ)
- ・当事者講話



地域の方へ名張のグルメ
インタビュー



高齢者疑似体験



アイマスク体験



車椅子スロープ体験



体験のまとめ



パラスポーツ(ポッチャ)
体験



施設見学

福祉教育出前講座実績

名張小学校4年生	71名	7月8日
名張小学校3年生	27名	10月1日
名張小学校4年生(サービスとの交流)	71名	10月30日
蘭生赤目小学校4年生	28名	7月9日
名張中学校1年生(出前)	163名	9月9日
名張中学校1年生(講話)	165名	9月10日 9月18日
情梗が丘小学校	35名	10月3日
つつじが丘小学校4年生	81名	11月14日
北中学校1年生	99名	12月1日
南中学校2年生	107名	12月5日
桔梗が丘南小学校4年生	33名	1月15日
百合が丘小学校4年生	47名	1月30日
すずらん台小学校4年生	22名	2月5日

災害時の備えについて学ぶ
災害備蓄ご飯を食べよう
(近大高専ボランティア部
協力)



●福祉体験学習・出前講座

[小学校7校(251名)・中学校3校(371名)]

《生徒の声》

- ・困っている人に声をかけていきたい
- ・車いすの使い方や介助方法を知ることができてよかった
- ・自分一人では難しいがみんなで協力したら出来ることがあるとわかった。
- ・車椅子でポッチャのボールを投げるのは難しかった

・見守るということも大事であるとわかった

《先生の声》

「誰もがお互いに助け合うことで過ごしやすく優しい社会に出来ることを願っています。そんな社会にしよう」という言葉は私達子供に携わる者も肝に銘じ実践しなければと思わせていただいた
体験や実物等学校の授業だけでは説明できない部分を体験でき良かった。

2-⑤. 各種交流 (地域ささえあい活動・配食ボランティア活動)

活動団体の「状況」「情報」「課題」「知恵」の共有を目的とした研修会&交流会の実施

実施目的やねらい

名張市内で活動されている地域ささえあい活動ボランティア、配食ボランティアを対象に活動に必要な知識・技術を学び相互理解を深めることを目的に研修会を実施。
また、ささえあい活動ボランティア、配食ボランティアが顔の見える関係をつくり、相互に交流することで、活動の情報交流や連携促進を図ることを目的として今年度初めて合同で交流会を実施。

実施内容

第1部 研修会

1) 安全運転講習 10:00~

内容: なばり自動車学校による運転適性検査・安全運転講習
対象: 地域ささえあい活動ボランティア、配食(配達)ボランティア
目的: 地域の大切な移動手段である有償送迎を担うボランティアや配食のお弁当を届けるサービスを担うボランティアが安全運転について学び、自分の能力を知ることができる検査・講演会を実施。

2) 調理実習 9:30~

内容: 季節の献立を取り入れた調理実習
対象: 配食(調理)ボランティア
目的: 配食サービスを行う上での注意点や工夫を学び、調理実習を通して技術を習得する

3) 昼食交流会 12:00~

お弁当を食べながら他団体と交流を行った
調理実習をしたグループは作ったお弁当を食べた



第2部 意見交流会

グループワーク 13:00~

内容: ボランティアをしていてよかったことや悩んでいること、今後について意見を共有した

●活動者の声(現状や課題等)

- ・今回の研修で料理のレパートリーが増えたので活動に活かしていきたい。
- ・他の配食ボランティアの方々と交流し、相談しながら料理ができてよかった。
- ・今回の研修で安全運転の意識が呼び起こされた。
- ・他の地域のボランティアさんの意見を聞くことができてよかった。
- ・毎年調理実習を実施してほしい。
- ・物価が高騰しているので配慮してほしい。(助成金や補助金の増額など)
- ・法人運営が厳しく、人材確保も難しくなっているためアイデアがあれば助言してほしい。
- ・このような交流会をこれからも実施してほしい。
- ・人材確保が課題。どのように担い手を募集しているのか知りたい。

開催日: 8月28日(木)

参加者: 研修会59名 交流会53名
・名張市内配食ボランティア活動 8団体
・名張市内地域ささえあい活動 8団体

場所: ベルウイング武道交流館



適性検査・安全運転講習



調理実習



昼食交流会



グループワーク



発表



グループワーク

2-⑤. 各種交流 (生活支援コーディネーター)

各種連絡会・交流会などの開催

○なばり子ども地域食堂ネットワーク連絡会

開催日:8月19日(火)14時~
参加者:名張市内子ども・地域食堂 4団体
場所:総合福祉センターふれあい203会議室
内容:団体の活動内容と現状、課題について
新しい活動団体の参加があり、各団体の活動内容の紹介や課題を共有

開催日:2月19日(木)15時~
参加者:名張市内子ども・地域食堂 5団体
場所:総合福祉センターふれあい202会議室
内容:なばり子ども・地域食堂について
各団体の活動状況について

連絡会の様子

- 活動者の声(現状や課題等)
- ・今の活動は70~80代の方に支えられている。10年先はどこまでできるか不安
- ・たくさんの方に来てもらえるように工夫している
- ・ボランティアが少ないときがあり、今後も続けていけるか不安
- ・子どもが自ら料理をしたいと思えるような環境をつくっていききたい
- ・後継者不足も課題ではあるが、やりたいと思う人が集まればできると思う
- ・いつも子ども1人でご飯を食べているという子の発言が気になることがある。
- ・子どもたちをささえていかなければならないと感じる
- ・イベントの周知をどうしたらいいか
- ・幅広くいるんな方に子ども食堂のことを知ってもらいたい
- ・子ども・地域食堂ネットワークとして横のつながりを大切にしていきたい
- ・このような情報共有できる機会を大切にしていきたい
- ・子どもたちが楽しく参加できるようなイベントを連絡会主催で実施したい



○なばり子育て支援員養成研修会への参画

開催日:6月12日、13日、19日、20日
参加者:22名
場所:総合福祉センターふれあい 展示ホール
内容:名張市主催の事業に参画し、研修会実施までの打ち合わせや準備、受付などを行った。また、ボランティアセンター事業として参加者に「ボランティアの役割と心得」について講義し、グループワークのファシリテーションも行った。

- 活動者の声(現状や課題等)
- ・子どもたちだけでなく保護者や関わる方全てを大事にしないといけないことを知った。
- ・虐待と思っていたことが虐待になること知った。
- ・ファミリーサポート制度を登録しても、急に対応できない場合はどうしたらいいのかわからない。
- ・子どもたちの発達、成長が違うのと同じで大人も違う。当たり前だと思っていた概念を取っ払っていけないと感じた。
- ・一人で子育てしていると孤独になる。名張市の利用できる施設や相談をどこにしたらいいかわからない方が多いのもっと広めてほしい。
- ・この研修を子どもたち、若い世代にも聞かせたいと思った。



○配食ボランティア活動連絡会

<配食ボランティア連絡会>
開催日:3月5日(木)13時30分~
参加者:配食ボランティア 8団体
場所:総合福祉センターふれあい101会議室
内容:名張市ボランティアセンター運営委員会の選出について、意見交換会



地域ささえあい活動連絡会

<地域ささえあい活動連絡会>
開催日:3月16日(月)13時30分~
参加者:地域ささえあい活動 10団体
場所:総合福祉センターふれあい101会議室
内容:名張市ボランティアセンター運営委員会の選出について、意見交換会



2-⑤. 各種交流 (生活支援コーディネーター)

各種連絡会・交流会などの開催

○ふれあい・いきいきサロン交流会

実施のねらい

サロン活動を支える活動者同士の交流や情報発信を図ることを目的に、ふれあい・いきいきサロン交流会を実施。また、これからサロン活動を始めたいと考えている方が、サロン交流会を通して活動するきっかけになることを目的に実施

開催日:2月26日(木)

場所:ベルウイング武道交流館

参加者:研修会57名

サロン活動者、新規活動検討者

民生委員児童委員、老人クラブ会員

内容:La・マンドリーナによる演奏、

防災ライフハック、交流会、助成金等説明



- 活動者の声(現状や課題、交流会に参加して)
- ・他団体のいろんな意見が聞けてよかった。
- ・人材不足が課題であると思った。
- ・若い方にもボランティアとして活動してもらいたいが、仕事をしていてボランティア活動に誘うことができない。
- ・サロンの参加者も災害や防災に関することを知りたいと思っているのでサロンで出前講座をやってもらいたい。
- ・サロンに来て演奏してもらえることを知った。今回の交流会に参加してサロンで演奏してもらいたいと思った。
- ・社協からサロンの課題やアイデアなどを発信してほしい。
- ・高齢化によりサロン会場まで歩いて来れない方もいることが課題。
- ・サロン参加者が元気でボランティアをする側も元気をもらっている。
- ・後継者がいないのが課題
- ・交流会に参加してマンドリンの演奏を聴き、とても心が癒された。
- ・他地域の話聞いて、サロンの開催方法について知ることができてよかった。
- ・ボランティアの方の話をもっと聞いて勉強にいききたい。

○スクエアステップリーダー交流会

実施のねらい

スクエアステップにおける動作の安全性および効果を再確認し、日頃の指導や実践に活かすことを目指す。また、活動者同士の交流や情報発信を図ることを目的に実施。

開催日:3月4日(水)

場所:ベルウイング武道交流館

参加者:研修会25名

・スクエアステップリーダー

内容:足の使い方と歩き方、交流会



- 活動者の声(現状や課題、交流会に参加して)
- ・正しい足の使い方を学んだのでスクエアステップに活かしていきたい。
- ・足のケアの大切さを教えてもらい大変参考になった。
- ・これまでにない交流会で参考になることが多かった。
- ・スクエアステップの人が集まらないことが課題。
- ・認知症の方が参加されている。どのようにスクエアステップを楽しんでもらえるかが課題。
- ・みんなが気軽にスクエアステップに参加してもらえるようにリーダーが工夫することが大切だと思った。
- ・他地域の方の活動内容を聞くことができてよかった。



2-⑤. 各種交流 (生活支援コーディネーター)

孤独・孤立を防ぐ居場所づくり事業の推進

社協 ✕ 法人連絡会

ひきこもりに関する研修会(名張市社会福祉法人連絡会と協働開催)

実施のねらい

近年、ひきこもり状態にある人の増加が社会的課題となっていることから、ひきこもりの背景や現状を学び、支援の視点や地域での関わり方について理解を深めることを目的に実施。また、研修を通じて、実践力を高めるとともに、地域福祉の向上を目指すために実施。

開催日:10月25日(土)

場所:名張市総合福祉センターふれあい ふれあいホール

参加者:研修会 92名

- ・名張市社会福祉法人連絡会 会員法人
- ・ひきこもりに関する支援をしている方
- ・ひきこもりについて関心のある方

内容:「ひきこもりについて知る」

～理解から始める寄り添いの一歩～

講師:川乗 賀也 氏

同朋大学 社会福祉学部 社会福祉学科 准教授



●アンケート結果

①研修について

とてもよかった(26)、よかった(29)
よくなかった(0)、どちらともいえない(0)

②内容は理解できたか

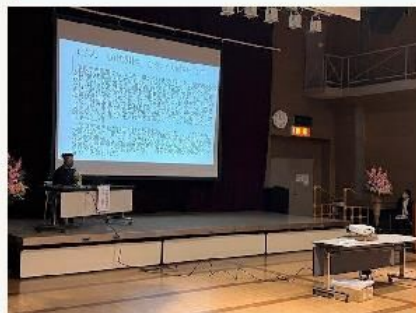
よく理解できた(24)、理解できた(29)
理解できなかった(0)どちらともいえない(2)

③ご家族やお知り合いにひきこもりについて

悩んでいる方はいますか
いる(22)、いない(24)
わからない(8)、無回答(1)

●参加者の声

- ・ひきこもりで困っている方がいたら少しでも力になれるよう関わりたいと思います。
- ・ひきこもりについて初めて聞く話であった。これからも関心をもっていきたい。
- ・本人の支援も大切であるが、家族や周りの方の支援をすることも大切であることを学んだ。
- ・ひきこもりの方が多いことに驚いた。
- ・現在、中学校の不登校居場所づくりボランティアをしている。どうしたら居場所に来てもらえるか、来てくれるお子さんとどう接したらいいか学びに来た。目の前の人を支援することはとても大切だと思った。
- ・当事者の方の支援というよりも親の支援という言葉が印象的でした。まずは相談に来てくれたことに感謝して支援につなげていきたいと思った。
- ・研修を受けて介入方法の検討も行っていきたいと思った。
- ・ひきこもりに関する考えを改めて、もっと身近な問題であり学んだことを活かしていきたいと思う。
- ・経験をもとにアウトリーチの専門チームなどをつくってみたい。市の事業として積極的に取り組んでほしい。
- ・自分だけでなく、周りの方の変化にも気づいていきたいと思った。
- ・これからも居場所の提供ができるように取り組んでいきたい
- ・仕組みや対策の説明が具体的でわかりやすかった。



2-⑤. 各種交流 (多世代交流事業：移動おもちゃ図書館/おもちゃばこ)

●おもちゃ図書館

“おもちゃばこ”

今年度は夏休みに2回開催
「生きがい通所」にいられた方も会場
にいられ、一緒に楽しい時間を過ごし
ました。



おもちゃ図書館では、みんなが大好きなおもちゃがたくさんあり、みんなと楽しく遊んでいます。
広いホールで、ボールプールやトーマス等の遊具で遊ぶことができます。たくさん身体を動かして楽しみましょう。

おもちゃばこミニイベントのお知らせ

日 時：8月2日(土)10:30～12:00 **定員 10名**
 場 所：総合福祉センターホール1F 第1ホール
 内 容：10:00～ おもちゃ図書館の紹介
 10:30～ 大塚アール・フォー「はじめての劇
 パンティシアターグループ「おぼろ」
 『好きなおもちゃをさがして遊ぼう』
 対 象：高齢者(特別) (就学前児童～小学生)
 ※保護者同伴
 場 所：7月29日(木)
 参加費：無料 ミニプレゼントもあるよ！

QRコード：まだお電話で申し込みください！

TEL:63-1111



●8月2日(土)

出演：ボランティアグループ ぼっば会
第1部

演目：・大型ペープサード(紙芝居)
「ショウガパン坊や」

・劇
「子ぶたとピザとおおかみ」

第2部

好きなおもちゃを探して遊ぼう

- ・東京おもちゃショー出展のおもちゃ
- ・ボールプール
- ・ブロック
- ・アンパンマンドラム

など

参加者：大人31人、子供27人



おもちゃ図書館では、みんなが大好きなおもちゃがたくさんあります。今回の「おもちゃばこ」では、ボールプールやトーマス、アンパンマンなどの遊具で楽しむことができます。
「おもちゃばこ」へ遊びに来てくださいね。

おもちゃばこミニイベントのお知らせ

日 時：9月6日(土)10:30～12:00 **定員 70名**
 場 所：総合福祉センターホール1F 第1ホール
 内 容：10:00～ おもちゃ図書館の紹介
 パンティシアターとエプロンシアター
 ボランティアグループ「はあと&はあと」
 『好きなおもちゃをさがして遊ぼう』
 対 象：高齢者(特別) (就学前児童～小学生)
 ※保護者同伴
 場 所：8月28日(木)
 参加費：無料 ミニプレゼントもあるよ！

QRコード：まだお電話で申し込みください！

TEL:63-1111

大きなかぶの場面では「うんとこしよ、どっこいしょ」と一緒に声を合わせてパネルシアターに参加しました。

また、好きなおもちゃ探しては、ボールプールなど思いおもいのおもちゃで遊びました。



●9月6日(土)

出演：ボランティアグループ はあと&はあと
第1部

演目：・エプロンシアター

「大きなかぶ」「おべんとうばこ」

・パネルシアター

「おもちころころ」

「おもちゃのチャチャチャ」

第2部

好きなおもちゃを探して遊ぼう

- ・東京おもちゃショー出展のおもちゃ
- ・ボールプール
- ・ブロック
- ・アンパンマンドラム

など

参加者：大人9人、子ども9人



2-⑤. 各種交流 (ふれあいフェスティバル)

●ふれあいフェスティバル

市民の方がボランティア活動を知ってもらうためのきっかけづくりとボランティア活動者同士の交流を目的として実施

- ・来場者 500名
- ・参加団体数 57団体

ふれあいフェスティバル 2025 10月19日(日) 10:00~15:00
会場: 名張市総合福祉センターふれあい (名張市社会福祉協議会)
入場無料

ステージ
マルシェ
パネル展示
ハンドメイド
スタンプラリー

クイズに答えてプレゼントをもらっちゃおう!

Q ボランティアの語源は?
正しい答えにこつ付いて!

答えを盗いたら、
このチラシを会場
受付まで持ってきてね!

限定 200個

A ラテン語 B 日本語
C フランス語 D 英語

QR ホームページに
ヒントが載っています!

年齢 (小学生以上) 10円 L 40円 J 70円以上
120円 L 50円
130円 L 60円

<アンケート結果>

●参加ボランティアより

- ・多くの人と交流があり、とても感謝です
- ・初めての人と話が出来たのは良かった
- ・他団体の活動が知れる機会と思う
- ・名張に住んでいる海外の方と交流ができて良かった
- ・子ども達にとって良い経験となりました
- ・たいへん人が多く来てくれて賑わっていて良かった

●来場者より

- ・ふれあいの中に入れる機会を作ってくれて良かった
- ・大人も子どもも楽しめた
- ・毎年楽しみにしています
- ・たくさんの体験ブースがあり、楽しかった
- ・ボランティア活動について知ることができた
- ・スタンプラリーがあり、いろんなブースを回り楽しめた

実行委員のアイデアから、シールアンケートやチラシクイズなどの企画が生まれました。

実行委員会	月日	主な協議内容
第1回	6月26日	要項、スケジュール、会場場所・開催日、全体企画、参加内容、チラシ
第2回	7月29日	チラシ、実行委員の役割、事前説明会実施日、啓発手段・方法
第3回	8月29日	スタンプカード、レイアウト、当日の実行委員の役割、プログラム、アンケート、事前説明会
事前説明会	9月25日	各出展ブースの説明
第4回	10月7日	プログラム、マップ、アンケート
第5回	12月3日	反省点・次年度に活かせること、令和8年度開催時期、実行委員の募集

委員構成

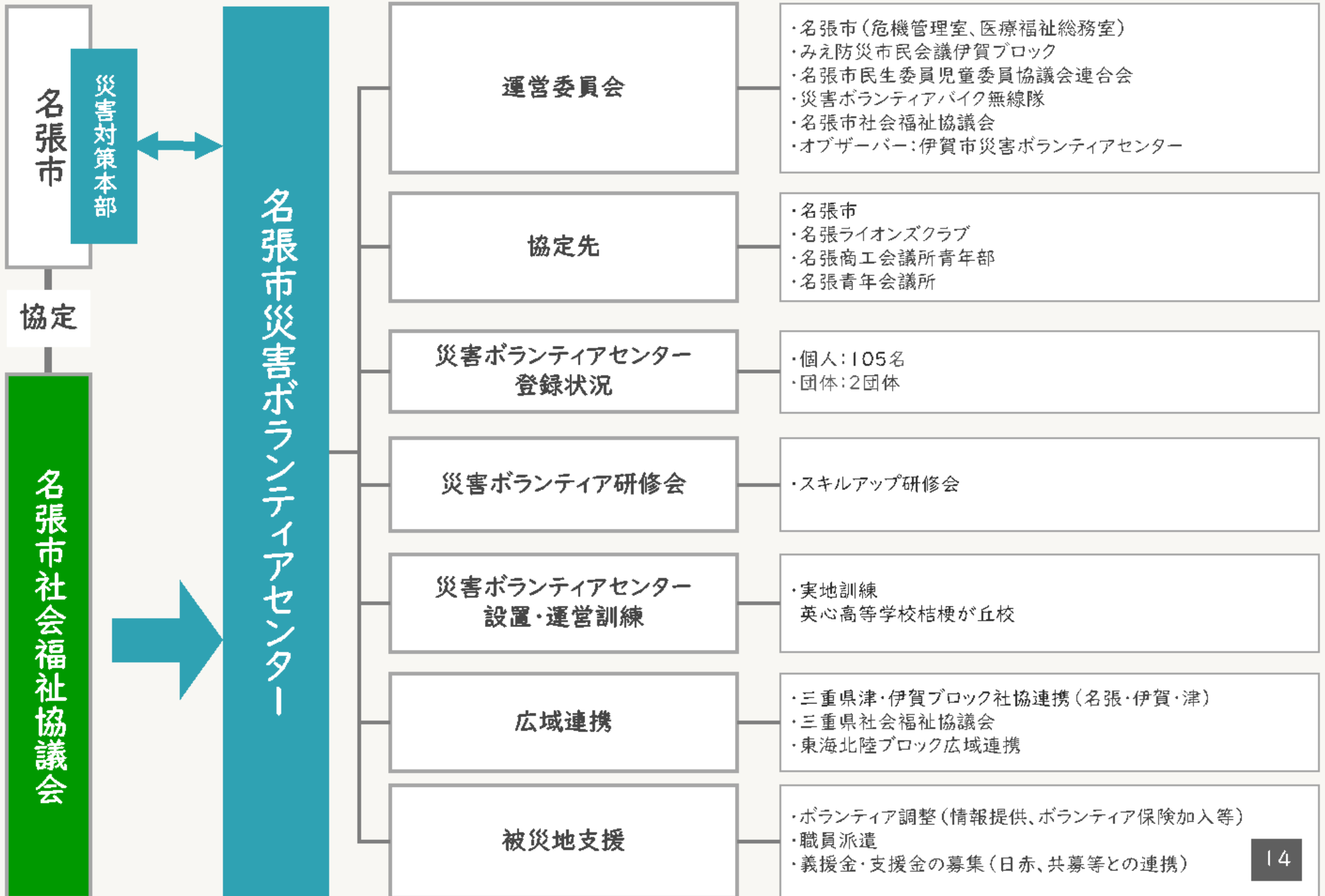
- ・名張市ボランティア連絡協議会 (要約筆記サークル カワン)
- ・地域ささえあい活動連絡会 (川西・梅が丘地域づくり協議会 福祉部会 "ちよいいすけ")
- ・配食ボランティアグループ連絡会 (配食VGひだまり)
- ・子育てサロン (青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会 親子サロン)
- ・高齢者サロン (よってだ〜こ8号店) (サロン うりぼう)
- ・第5種組織構成会員 (配食、サロン除く) (ホワイトステッキ)



ボランティアセンター運営委員会からは、子育て世代の親にボランティアを知ってもらうため、ボランティアブースを企画して参画しました。



2-⑥. 名張市災害ボランティアセンター



令和7年度災害ボランティアセンター研修会 (能登半島災害からこれからの災害ボランティアセンターのあり方を考える機会づくり)

災害ボランティア登録状況 (令和8年3月31日現在)

登録ボランティア(個人)
105名
登録ボランティア(団体)
2団体

災害ボランティア協定団体

- ・名張ライオンズクラブ
- ・青年会議所
- ・商工会議所青年部
- ・名張市

県域での連携強化

- 広域連携協議会幹事会への出席
災害時に県内での受援体制の強化をはかるため県社協主催の会議に出席。
令和7年度から2年間幹事社協となるため幹事会へ出席し、情報共有を行った。
・会議出席 4月18日、10月29日、令和8年3月19日
- 災害時広域連携協議会 津・伊賀ブロック会議の実施
災害時、県域での受援体制の強化をはかるため、津・伊賀ブロック担当者会議を実施。
幹事社協であるため、会議の調整や研修会の計画などをたて、ブロック内で連携ができるように努めた。
・会議実施日 5月30日、8月20日、10月8日、12月10日
・津市社協災害ボランティアセンター設置運営訓練に参画 8月2日
・伊賀市社協災害ボランティア設置運営訓練に参画 令和8年3月20日
- 伊賀市災害ボランティアセンター運営委員会へ出席
災害時、近隣の伊賀市災害ボランティアセンターと連携するため、災害ボランティアセンター運営委員会へオブザーバーとして出席した。
・会議出席 8月21日、令和8年3月16日
・研修会 令和8年2月7日

●災害ボランティア交流会

目的
災害ボランティアや団体との交流を通じて、顔の見える関係と助け合えるつながりを育て、地域全体の受援力と持続可能な防災体制を高めるために実施。
今年度は初めて、協定先と現状共有を通じて、改めて連携を見直し、より強い協力体制を築くことを目指した。

サブテーマ:顔の見える関係性づくり
発災時、「あの人はどうしているだろう・・・」と気にかけるのは、顔を知っているから

参加者数:43名

《内容》

第1部

協定団体の災害時の対応について知る

・各協定団体が、「能登地震」の際にどのような活動を発表

第2部

交流会

「近年の災害について思うことや考える事」

●もしもの時の防災体験

目的
子どもたちを中心とした地域住民が、災害時の生活やささえあいの必要性を体験的に学ぶことを目的として実施。

避難所ベッドでの生活体験や炊き出し体験を通じて、災害時にどのような環境で生活することになるのかを自ら感じ取り、「もしもの時に何ができるのか」を考える機会とする。また、社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターの役割を学ぶことで、災害時の地域支援活動を身近に感じ、日頃から地域の助け合いに関心をもつきっかけとする。

体験と学びを通じて、地域内に「顔の見える関係づくり」を促し、災害に強く、人と人がささえあえる地域づくりにつなげる。

参加者数:約80名

《内容》

第1部

講話 日本赤十字社三重県支部

金谷 達也氏

第2部

- ・ハイゼックス袋を使ってご飯を作ろう
- ・災害時の備えについて考えよう
- ・避難所生活体験をしよう
- ・災害ボランティアセンターを知ろう

<参加者の声>

- 協定団体の災害時の対応について知るについて
・青年会議所・ライオンズクラブの災害時の取り組みについて、よく理解できました。若い組織団体が活躍している事が嬉しく思います。
・普段あまり知らない団体のお話を聞き認識する事ができた。
- ・協定団体だと全国ネットで行動ができるので大変効果も大と感じた。
- ・対応事例や現地ニーズとのギャップ等を確認できた。また、各団体が連携することの必要を感じた。
- ・協定団体の強さが安心した。
- ・初動について知れてよかった。



<参加者の声>

- 意見交流会や、ご自身が災害ボランティアとしてどのような行動ができるかについて
・様々な立場の方の意見が聞けてよかった。
- ・様々なボランティア活動をされている人がいる事がわかった。傾聴、多言語等、こんな方がいるんだなと思えたので、「顔が見えるようになる」という目標は達成できたのでは。
- ・訓練に今後もしっかり取り組んでいきたい。
- ・被災地へ行く事とともに、地元での受け入れも考えていく事も必要。
- ・日頃から災害の対策に関わる備えができるよう、啓発していけたらと思う。



<参加者の声>

- 17歳以下の方
・簡単なベッドがどうして200kgももつんだらうと思った。
- ・新聞でスリッパを作るやつが簡単やから家でもやってみようと思った。
- ・社協の意味が少しわかりました。活動のことで身近に感じることができた。
- ・災害の時に役に立ちそうなことを教えてもらえました。
- ・気温の激しさなどで、夏か冬に避難したら余計に大変だと思った。
- ・温かいご飯のありがたみを知った。
- ・もっと災害について知って行動していきたい。
- ・災害時に社協が助けてくれることを知った。



●18歳以上の方

- ・もしもの時に役立つ情報を聞いて勉強になった
- ・トイレの備蓄の件は大変参考になった。
- ・「避難所の運営者も被災者である」という言葉が印象に残った。
- ・イメージしていたことが本当に起こるのかと改めて実感した。
- ・とても勉強になり、今日から備えをしようと思う。
- ・普段体験できなかったことが体験できてよかった。
- ・体験しておくことでいざという時に焦らなくていいと思った。
- ・災害時は小さなことでも助かると思うので積極的に自分ができることをしたいと思った。
- ・研修を通してボランティアとして自分にもできることがあると思った。



令和8年3月24日(土) 10:00~12:30
場所 宇陀市八木学園 協心斎堂
参加費 無料

日時 令和8年3月24日(土) 10:00~12:30
場所 宇陀市八木学園 協心斎堂
参加費 無料

内容 (講話) 講話 日本赤十字社三重県支部
講話 金谷 達也氏
体験 炊き出し体験
体験 ハイゼックス袋を使ってご飯を作ろう
体験 避難所生活体験

お問い合わせ 0595-63-0111 0595-64-3349

学んで・体験して・実えあふ
もしもの時の防災体験

子どもたちを中心とした地域住民が、災害時の生活やささえあいの必要性を体験的に学ぶことを目的として実施。

避難所ベッドでの生活体験や炊き出し体験を通じて、災害時にどのような環境で生活することになるのかを自ら感じ取り、「もしもの時に何ができるのか」を考える機会とする。また、社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターの役割を学ぶことで、災害時の地域支援活動を身近に感じ、日頃から地域の助け合いに関心をもつきっかけとする。

体験と学びを通じて、地域内に「顔の見える関係づくり」を促し、災害に強く、人と人がささえあえる地域づくりにつなげる。

参加者数:約80名

《内容》
第1部
講話 日本赤十字社三重県支部
金谷 達也氏

第2部
・ハイゼックス袋を使ってご飯を作ろう
・災害時の備えについて考えよう
・避難所生活体験をしよう
・災害ボランティアセンターを知ろう

2-⑦. 社会貢献 福祉団体等事務局支援

福祉団体共同事務局

当事者活動の運営・事業実施に向けた事務局支援、もしくは協力をおこないました。

また、6月24日(火)に福祉4団体(身・老・遺・保)共同事務局運営連絡会を開催しました。支援体制について話し合い、共同事務局に関する覚書を締結しました。

団体名	主な実践活動	総会	役員会 定例会	部会	研修・ 交流会	その他 日常対応	計
名張市身体障害者互助会	・会計事務補助 ・総会、会計監査、地区役員会、執行部会等の事務補助 ・関係機関(県障連合会、名張市等)との連絡調整	1回	6回		1回	25回	33回
名張市老人クラブ連合会	・会計事務補助 ・総会、会議、イベント等の事務補助 ・会員や関係団体等と事務局との連絡調整	1回	27回	18回	2回	110回	158回
名張市遺族連合会	・会計事務補助 ・総会、会議等の事務補助 ・研修会にかかる業務補助、同行	1回	6回	3回	1回	60回	71回
名張保護司会	・会計事務補助 ・役員会、部会等の事務補助、調整 ・社会を明るくする運動に関する事務補助、調整 ・ふれあいフェスティバル参加準備支援	1回	6回	21回	4回	81回	113回
家族介護者の会 「楓の会」	・介護者サロン「さくら喫茶」の実施におけた共催協力				4回		4回
精神障がい者家族会 「なばるの会」	・定例会への出席		11回				11回
名張市社会福祉法人連絡会	・会計事務補助 ・総会、会計監査、役員会、部会の資料作成、連絡調整 ・自主研修の開催支援	1回	14回	7回	6回	170回	198回

2-⑧. 各種大会等の開催支援

名張市障害者スポーツ大会

令和7年11月7日(金)第22回名張市障害者スポーツ大会を開催しました。大会に向けて、実行委員と共に会議の中で大会の進め方や進捗報告、課題について話し合いました。(三役会2回(6月16日、3月5日)、実行委員会4回(6月30日、8月29日、10月20日、12月12日)前年度大会のふりかえりや参加者アンケートの意見を踏まえた大会運営づくりや、競技内容について事前アンケートやプログラム「〇×クイズ」では実行委員の案の中から最終的に採用するものを決定するなど意見を反映した内容づくりを進め、当日は参加者135名、協力者132名(実行委員含む)が参加され、参加者同士の交流も活発で、会場は終始和やかな雰囲気にも包まれていました。

2-⑧. 地域福祉活動への支援：地域福祉活動助成等＋地域福祉活動支援備品貸出事業

地域福祉活動財源確保のための 各種募金活動の推進

- ① 地域づくり組織のみなさまへ、活動資金・募金へのご協力をお願いを進めました。
協力に対する趣旨理解と各地区に沿った資金とりまとめの現状を知る機会となりました。
3月（国津、薦原）、
4月（箕曲、つつじ、蔵持、川西梅が丘、美旗、錦生、百合が丘、名張、桔梗が丘）
5月（すずらん台、ひなち、中央、春日丘） 6月（赤目）
- ② 共同募金運営委員会を3回開催し、運営委員より意見やアイデアをうかがうことにより、10月から始まる赤い羽根共同募金運動をより柔軟に展開できるよう準備を進めました。
第1回 5月30日、第2回 7月1日、第3回 8月27日

地域福祉活動推進のための 助成事業、備品貸出事業

- ③ 助成事業の見直しにより、今年度より様式改定（申請・報告書の押印撤廃）を進めました。
4月 申請受付、5月 助成審査、6月 決定・交付

【地域福祉活動助成事業】 6,426,350円	
共同募金配分金	
善意銀行寄付金	
社協会費	
その他	
地域見守り配食事業	8件 2,148,100円
地域見守り事業	71件 2,205,000円
ひとり暮らし高齢者のつどい事業(予定)	6件 233,250円
ボランティア活動事業	33件 1,140,000円
福祉協校活動事業	20件 495,000円
イベント開催事業	1件 80,000円
当事者・家族会活動事業	6件 125,000円

●助成金 配分団体からの声

・昨今の物価高騰を受け、食材選びに苦労しましたが、活動を支える財源である共同募金にご協力して下さる住いのみなさんとボランティアの支えがあって活動を継続することができました。（地域見守り配食事業）

・様式に押印がなくなったのでメールでの提出ができるのはとても助かります。4月の申請手続きがしやすくなりました。（地域見守り事業）



ソフトダーツ



スカットボール

【地域福祉活動支援備品貸出事業】

・名張市内におけるボランティア活動や地域福祉活動を目的とした交流・イベント事業を対象に貸出
・貸出総件数：652件 ・貸出延団体数：291団体

福祉教育	高齢者疑似体験セット、妊婦疑似体験セット、視覚障害者セット、ボッチャ等
イベント	綿菓子機、ポップコーン機、かき氷機、射的 テント 等
機材・遊具	プロジェクター、スクリーン、ソフトダーツ、ボッチャ等
音楽関係	鳴子、ミニマラカス、トーンチャイム、お手玉、太鼓 等

3.地域福祉課（生活支援係）

-
- 3-①.権利擁護支援×生活困窮支援=自立と自律（尊厳ある本人らしい生活を回復するための支援）
 - 3-②.実績一覧
 - 3-③.多様な生活課題の対応力（人材確保・多様な関係機関との連携）
 - 3-④.企業他 多様な関係機関との連携・協力による重層的な支援、相談窓口の周知

3-①. 権利擁護支援×生活困窮支援＝自立と自律(尊厳ある本人らしい生活を回復するための支援)

なばり暮らしあんしんセンター事業

【なばり暮らしあんしんセンターの事業構成】

【対象者・社会的ニーズ】



3-②. 実績一覧

事業名		新規相談件数	新規契約件数	3月末契約者数	延支援回数	
福祉サービス利用援助事業	日常生活自立支援事業	22件	10件	68名	6,046回	解約11件
成年後見事業	法人後見事業（受任案件）			（受任件数）7件	1,138回	死亡1件
		問合せ件数	新規相談件数	調整支援回数		
	成年後見制度（一般相談）	2件	11件	115回		
生活困窮者自立支援事業		新規申込者数	支援回数	就労開始件数		
	自立相談支援事業	146件	3,396回	38件		
		新規相談件数	継続相談件数	申請件数	承認件数	
	住居確保給付金相談	38件	256件	22件	22件	
		利用者数	協力事業者数	就労体験数	一般就労に向けた支援	
	就労準備支援事業	5名	4事業所	36回	4名の内、2名が就労継続支援B型作業所へ	
		プラン件数	延支援回数	支援内訳		
	家計改善支援事業	37件	393回	家計管理支援：338回、債務整理支援：49回、滞納解消支援：6回		
		利用者数	協力事業者数	就労体験数		
	被保護者就労準備支援事業	7名	6事業所	205回		
生活福祉資金等貸付事業		相談件数	貸付件数	貸付金額	主な貸付内容	
	地域福祉金庫貸付事業	66件	18件	295,000円		
	生活福祉資金貸付事業	341件	20件	7,892,000円	内、15件（7,418,000円）は教育支援資金貸付を行い、低所得世帯に対して進学や就学の継続支援を実施	



- 専門性×多様な関係機関との連携・協働
- 人材確保

3-③. 多様な生活課題への対応力（人材確保・多様な関係機関との連携）

すまいの活用 & 生活にお困りの方の生活相談会

〈日時会場〉
11月8日(土) 13時から16時まで
(開演前夜 15時30分)
名張市役所(名張市油之台1-1) 1階 大会議室にて



専門家相談

・住居費を相談しながら、どうにかしたいのか分からない
 ・借金返済が難しい
 ・リフォームの費用を悩んでいる

すまいの活用

・生活困窮者
 ・失業して家賃の支払いが難しい
 ・一人暮らしを始めるのに人財を必要とした
 ・家賃が安い
 ・仕事探し



《令和7年度 生活にお困りの方の生活相談会開催》

開催日:令和7年11月8日(土) 実績:9世帯の相談対応

住まいの確保が難しい方(住宅用配慮者)への支援を目的に、三重県居住支援連絡会、名張市住宅室、居住支援団体としての生活相談会を実施。今年度は、名張市住宅室主催の空家に関する相談の「すまいの活用相談会」と合同開催。三重県宅建協会や伊賀南部不動産業協同組合、三重県司法書士会他多数の団体の協力もあり多様な相談に応じることができました。

生活支援員養成講座

時代の変化に伴い、地域や生活の様子が少しずつ変わっていく中で、ふと立ち止まらざるを得ない状況になり、悩みの一つが顕在化しています。名張市社会福祉協議会は「暮らしが支えられなくなった方へ、地域福祉活動へ参加する活動等をサポートすることを目的に「地域福祉」に関する研修を企画いたします。研修の趣旨・加齢を学ぶとともに、現在地域で実践されている方々の経験談を聞くことで、後継福祉活動の動きを学びたい方におすすめです。

日程: 令和7年10月22日(水) 9:30-12:00
 令和7年10月29日(水) 9:30-12:00

場所: 総合福祉センター 水越ホール

対象者: 地域福祉活動に経験のある社会福祉士やボランティアの方

定員: 20名 (15名程度)

費用: 研修費 無料

申込期間: 令和7年10月6日(月) 16:00まで
 令和7年10月17日(水) 17:00まで

申込方法: 申込用紙に必要事項を記入し、お申し込みください。お申し込みは、電話またはメールでも可。

お問い合わせ先: 社会福祉法人 名張市社会福祉協議会 研修センター
 〒519-0201 名張市油之台1-1-15
 TEL:0595-64-1576 (平日 8:30-17:15)



《令和7年度生活支援員養成研修の開催》

開催日:令和7年10月22日(水)、10月29日(水)
 実績:14名受講、14名名簿登録、2名雇用 (3月末活動中の生活支援員:25名)

担い手である日常生活自立支援事業の生活支援員は、支援内容の多様化や複合的な課題を抱える方の支援に対応できるように支援員の養成を行います。生活支援員養成研修は、法人後見支援員や福祉後見人へのステップにもなります。

●多様な関係機関との協働・連携等（一部抜粋）

会議等	<ul style="list-style-type: none"> ・名張市エリアディレクター会議 ・名張市空家対策推進協議会 ・三重県居住支援連絡会 ・日常生活自立支援業専門員連絡会議及び情報・意見交換会 ・伊賀地域福祉後見サポートセンター (理事会・運営委員会・実務担当者会議・定例情報交換会) ・津家庭裁判所伊賀支部との意見交換会 ・生活困窮者自立支援事業 主任相談支援員意見交換会 ・伊賀地域依存症ネットワーク会議 等
交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ペット関連社会資源と市・社協交流 (企画) ・企業家交流会 (名張青年会議所主催) ・その他、企業開拓

●多様な相談への対応力（一部抜粋）

専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見継続研修 (身寄りのない方の最期について) ・精神保健福祉研修 (基礎・専門) ・生活福祉資金担当者研修 事例検討会 ・三重県就労支援研修 ・生活困窮者自立支援制度人材養成研修 (相談支援員、住まい相談支援員) ・生活困窮者自立支援 全国研究交流大会 ・住居確保給付金に係る研修 等
多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・消費生活相談員等勉強会 ・三重県住宅セーフティネット法等に関する全国説明会 ・中部ブロック居住支援勉強会 ・職業紹介責任者講習会 等

3-④. 企業他 多様な関係機関との連携・協力による重層的な支援、相談窓口の周知

令和7年度 生活困窮者自立支援事業
講演会のご案内

主催 名張市社会福祉協議会
後援 名張市

みんなが活躍できる
新たな雇用のかたち

～地域には、戦力となる人材が眠っています～

●人づくり並み事業費の方
●新たな企業行動を創出し、社会貢献の方
●社会貢献を考えている事業者の方
●就業支援を行っている関係者の方

※関心のある方は、どなたでも参加OK

西郷 裕子 代表理事
東郷 美穂 代表理事

実施報告 代表理事
有楽社 ウメザワ 代表理事

日時 令和7年 3月20日(水) 10:00～11:30(受付 9:30～)

会場 名張市社会福祉センターふれあい1階 ふれあいホール
(名張市丸の内町4番地)

お申し込み 令和7年2月24日(水)まで

お申し込み先 社会福祉協議会
TEL: 0593-64-1926
FAX: 0593-64-1389
mail: jishu@kaiyosei-shikyo.jp



企業・事業主を中心に
他 関心のある方 64名が参加

広報「なばり」 2026 年1月29日

あなたらしい人生をまえる。
なばり暮らしあんじんセンター

「苦しい生活のこと、一緒に考えたい」

「なばり暮らしあんじんセンター」の活動について、また生活困窮となる背景、事業内容、相談の流れについて「広報なばり」で特集

左記講演会の開催(協力企業拡大)、相談窓口の周知につながった。

「苦しい生活のこと、一緒に考えたい」

「なばり暮らしあんじんセンター」の活動について、また生活困窮となる背景、事業内容、相談の流れについて「広報なばり」で特集

左記講演会の開催(協力企業拡大)、相談窓口の周知につながった。

【開催趣旨】
様々な背景を持ち、労働機会の制限のある人々も働く機会に包摂することが求められる。どのような柔軟な考えで働く機会をつくっていくのか、超短時間雇用モデルを提唱される講師、また名張市で実践される経営者を招きひとつの手段として知る機会とし、様々な背景のある人々を包摂する考え方が地域の企業に広がるきっかけとなることを目的に開催

【成果】
開催案内で企業等訪問150社、内5社、また当日アンケートにおいて見学や体験の相談可と回答8社

今後、上記計13社を1社ずつ訪問し具体的に相談をしていく予定。

生活困窮者自立支援事業
開拓した協力企業について、また生活困窮となる背景、事業内容、相談の流れについて「広報なばり」で特集

左記講演会の開催(協力企業拡大)、相談窓口の周知につながった。

令和7年12月24日 クリスマス会 (被保護者就労準備支援事業 利用者による企画)



目的
利用者がイベントを企画する経験をする

内容
・利用者と支援者で会の内容を企画(ゲーム内容、ルール、優勝チーム賞品など)
・準備(コーヒーメーカー使用の練習、ゲームの予行練習)
・当日は利用者が司会、コーヒーを沸かし、ケーキとコーヒーの配膳などの役割を持ちつつ、担当ケースワーカーとペアになりゲームを楽しんだ。

4.生きがい通所支援事業

4-③.生きがい通所支援事業所(生きがいづくり事業)

4-④.生きがい通所支援事業所(健康維持・フレイル予防の推進)

4-③. 生きがい通所支援事業所（生きがいづくり事業）

	令和7年度	令和6年度	比較増減
開館日	188	301	△113
年間延利用者数	4,798	8,597	△3,799
月平均	399.8	716	△316.2
カラオケ利用者数	1,929	3,446	△1,517

老人福祉センターは廃止されましたが、「生きがい交流スペース」でこれまでどおり市内在住の高齢者の生きがいづくり事業、健康維持・フレイル予防事業に取り組みました。また地域福祉課と連携し、多世代交流事業では子ども・若者から高齢者まで幅広い世代の笑顔があふれる交流の場として8月には『夏祭り』を開催しました。令和8年度からの若者の居場所づくり「ユースプレイス」の設置に伴い令和7年11月17日から令和8年3月31日まで休止しました。次年度に向けて利用者の満足度を高められるよう準備に努めました。

各種イベントの開催



参加者同士の交流や楽しいひとときを過ごしていただくことを目的に、ギター演奏や伊賀琉真太鼓・三線の演奏会を実施しました（延51名）

各種発表会



カラオケ大会やビリヤード大会等で日頃の成果発表や交流機会の確保を図りました（参加者：延99名）

自主サークル活動

カラオケ教室	11回、延98名
書道クラブ	8回、延80名
レクレーションサークル	6回、延86名
英語サークル	26回、延205名
踊りの会	2回、延5名
盆踊りの会	2回、延5名

趣味活動

ビリヤード	993名
マージャン	678名
囲碁・将棋	103名

NabaLink（ユースプレイス）設置に伴い改修工事等説明会

7月31日、8月5日、11月14日
名張市医療福祉総務室より「総合福祉センターふれあいの改修工事等」について説明会が開催され、3日間合わせて約60名の参加をいただきました。



生きがい通所支援事業（健康維持・フレイル予防の推進）

利用者状態の把握



入館受付票を活用して体調の確認



随時、健康相談や生活相談

メニュー	内容
入館時の健康チェック	入館時の体調チェック
健康相談・生活相談	希望者に対応

各種介護予防の実施

メニュー	実績
マシンステップ(基本コース)	143日、延1,917人
マシンステップ(追加コース)	21日、延38名
スクエアステップ教室	21日、延120人
体操の時間	106日、延535人
ヘルスアップ教室(料理教室)	1日、延12名



マシントレーニング教室で、特に下肢を鍛える6種のマシンを使った運動



スクエアステップ教室でマスをステップ



管理栄養士による「筋力アップ」をテーマにした料理教室を開催(ヘルスアップ教室)

フレイルサポーター(担い手として参加)



スクエアステップ教室でスクエアステップリーダーが教室を実施

生きがい通所支援事業（多世代交流事業）

盆踊りでボランティア活動している方々や親しみのあるギター演奏ライブ、わくわくゲーム等で子どもから高齢者の多世代が交流する「ミニ夏祭り」を開催しました(参加者 延150名)

